

# 釧路モデル地域の取組

## (1)概要(本地域の特性)

- ・釧路モデル地域においては、平成30年2月に圏域検討会が発足。
- ・名寄周辺及び十勝南モデルと異なり、「釧路地域づくり連携会議」での意見交換を中心に検討を進める体制。
- ・『「国際バルク戦略港湾」釧路港を活用した農業振興』の検討を先行。
- ・現在、釧路地域で進められているプロジェクトと連携・協力し取組を推進。

### ■ワーキングチーム等の開催実績

#### H30.2.7 第1回圏域検討会



H30.7.31 全体ワーキングチーム

R1.8.8 釧路地域づくり連携会議

R1.9.24 ~ R1.11.24  
釧路総合振興局や検討会・連携会議  
の民間構成員との意見交換

■ 施策の将来像を共有

R2.8.24 釧路地域づくり連携会議

R2.10.2 ~ R3.2.10  
施策案1に関する、農業協同組合長、  
肉用牛生産関係者等との意見交換

R3.5.21 釧路地域づくり連携会議

R4.9.20 釧路地域づくり連携会議

### ■「施策の将来像」の施策案と取組の方向性

#### 施策案1：「国際バルク戦略港湾」釧路港を活用した農業の振興

##### 背景

- ・酪農は釧路地域を代表する産業の一つであり、生乳生産量は全国の約7%、全道の約13%を占め、生乳は釧路港から首都圏へも届けられている。

##### 取組の方向性

- ・釧路港が国際バルク戦略港湾として整備されたことに伴い、効率的な輸送が実現し、穀物飼料が安定的に確保可能であることから、**当該優位性を活かした農業振興（肉用牛等）の強化を図りたいとの声。**
- ・**肉用牛の生産などの経営の多角化、商品価値を高めるための高品質化や6次産業化、多く売るための経営の大規模化を目指す。**

#### 施策案2：海と山の恵まれた食の活用による観光振興

##### 背景

- ・釧路管内の沿岸部は、道内でも水産業の盛んな地域であり、令和元年7月に商業捕鯨も再開。
- ・また、内陸部では、酪農をはじめとして、地域の特色を活かした様々な農業が営まれ、さらにジビエとしてエソシカ料理が注目されている。

##### 取組の方向性

- ・釧路管内の農水産業の振興を進めつつ、公共交通機関も活用していくなど総合的な観光振興に取り組む。

#### 施策案3：災害時に備えた広域連携

##### 背景

- ・日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震による津波被害のリスクが高い。
- ・近年、広域にわたる大雨・台風など自然災害が発生しており、被災地における近隣市町村との広域連携の重要性が増加している。

##### 取組の方向性

- ・北海道、関係市町村等と検討方向及び検討体制の調整
- ・各市町村の現行の地域防災計画の内容の共有、特に広域連携の課題等についての検討
- ・国、道、市町村連携（例：防災担当者への研修等）